

審査員はすべて
海外の有名バレエ芸術家!

第30回全国バレエコンクール in Nagoya

日程:2020年8月26日(水)・27日(木)・28日(金)

会場:名古屋市青少年文化センター (名古屋市中区栄3丁目18番1号 ナディアパーク内)

※名古屋市芸術創造センターが改修工事のため、
2020年は上記会場にて開催致します。

お申し込みは
6月1日(月)
からとなります。

【女子部門】
ジュニアA-1〈バレエシューズ〉(小学1年生~4年生)
ジュニアA-2〈トウシューズ〉(小学4年生~6年生)
ジュニアB(中学生)
ジュニアC(高校生)
シニア(40歳まで)

【男子部門】
ジュニアA(小学生~中学2年生)
ジュニアB(中学3年生~高校3年生)
シニア(40歳まで)
※開催時の学年・年齢

審査委員長
ユーリー・ヴァシュチエンコ
(モスクワ国立ボリショイ劇場プリンシパル)

審査員
リュドミラ・セメニヤカ
ワディム・ソロマハ
マリア・ピロヴァ
セルゲイ・ウサノフ

*外国人審査員は事情により変更する場合もあります。

上位入賞者の特典!!

・ロシア、ウクライナの名門バレエ学校へ留学推薦を致します。
・シニア部門の方のみ海外バレエ団への研修推薦制度あり。

CJB 中部日本バレエ団

〒453-0018 名古屋市中村区佐古前町16-41

申込書はホームページからダウンロードいただき、バレエ団までFAXにてお申込みください。
TEL 052-481-5017
FAX 052-481-4388

<http://www.zenkokuballetcon.com>



名誉総裁
ユーリー・グリゴロビッチ



第15回(2019年度)
名古屋音楽ペンクラブ賞

名古屋音楽ペンクラブ賞

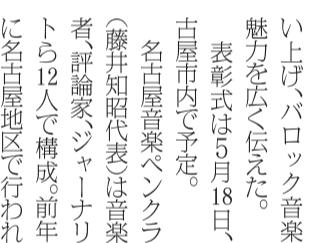
室内楽アンデイモと
ソプラノ加藤佳代子に



ピアノ桑野郁子ら4人
がメンバー。15年7月から20年2月まで5年半にわたり計11回、ブームスの室内楽全曲演奏会を開き、多彩なゲストとともに

室内楽集団アンデイモ(ブームスの森)(2月24日ほか・電気文化会館)がメンバーより。15年7月から20年2月まで5年半にわたり計11回、ブームスの室内楽全曲演奏会を開き、多彩なゲストとともに

室内楽集団アンデイモ(ブームスの森)(2月24日ほか・電気文化会館)がメンバーより。15年7月から20年2月まで5年半にわたり計11回、ブームスの室内楽全曲演奏会を開き、多彩なゲストとともに



本紙6、7月号で「紙上写真展」

舞台写真家・中川氏、杉原氏の力作を掲載

舞台公演の一瞬を切り取った1枚の写真には、時として生のステージを超えるドラマと興奮がある。本紙では6月号、7月号で日本舞台写真協会会員の中川幸作氏、杉原一馬氏の「紙上写真展」を行なう。

中川氏は名古屋フィル

ハーモニー交響楽団、二

期会など音楽系ステー

ジの撮影が中心。豊富な

キャリアと、工夫を凝ら

した撮影技術を駆使し、

アーティストの人間性に

までも迫る。

杉原氏は父・隆氏とど

もに和光写真を運営。華

やかで繊細なバレエの一

瞬を切り取った写真には

定評がある。誠実な人柄

と高い撮影技術で多く

のダンサーに絶大な信頼

を得ている。

△ナゴヤ劇場ジャーナ

ル

い上げ、バロック音楽の魅力を広く伝えた。

表彰式は5月18日、名

古屋市内で予定。

名古屋音楽ペンクラブ

(藤井知昭代表)は音楽学

者評論家、ジャーナリスト

トら12人で構成。前年度

クラシック音楽の公演を

対象に、これまでに計43

件を表彰している。

2019年度回顧(オペラ)



①

オッヘンバッケの誕辰

2000年を記念して代

表作「ホフマン物語」(19

年10月5、6日・愛知県

芸術劇場大ホール)写真

①)を上演した。安賀勲

ルメン(11月2、3日・

△愛知芸文フェス「カ

ルメン」(11月2、3日・

△愛知芸文フェス「カ

美サイレント

名古屋市千種区の地下鉄・本山駅のすぐ北側に昨年12月、クラシック向きの小ホールが誕生した。

「美サイレント本山」と

3月下旬、知人のピアノリサイタルで初めてこのホールを訪れた。高くて目立つビルで、本山駅から迷うことなく会場に着いた。駅から近いのが便利でいい。

エントランスは狭く、ロビーのスペースはないが、ホール内はゆったりして座席に座った感じも良かった。



いう名称のマンショングル2階にあり、固定の90席。手頃な大きさと言えます。ピアノは小型のスタンド。

うかと気になったが、ピアノ演奏が始まると、音は響きすぎることなく聴きやすかった。「程よい音量で弾きやすい」という演奏者の感想を聞いた。

1階はピアノがあるフェバー。ガラス張りの前後に訪ねたい。

1



2019年度回顧(バレエ)



◆創立40周年を迎えた川口節子バレエ工団が記念公演「ジゼル」(写真①)を上演。タイトルロールを踊った中谷友香はもう一人一人が、渾身の演技でドラマに命を与えた(19年5月19日・芸術劇場大ホール)。

同団は年末にも「くるみ割り人形」(写真②)を上演。金平糖を演じた野黒茉夢が素晴らしい演技で躍動。伸び盛り



公演「ドン・キホーテ」(ハイライト版)(写真③)を開いた。ハイライトは同

スタジオ出身でオーストラリアバレエ工団プリンシパルの近藤亜香と、サンフランシスコバレエ団ソリスト石原古都の特別出

演。二人に触発されたよう、若いプリマ候補生たちが奮闘し、スタジオの層の厚さを示した。近藤は19年度の愛知県芸術文化選奨を受賞した。(6月20日・市民会館フォレストホール)

◆神戸珠利が率いる佐々智恵子バレエ団が創作バレエ「二羽の鳩」(写真④)を上演した。

◆岡田純奈バレエ団が、演出・振付を一新した「くるみ割り人形」(写真⑤)を上演した。同団の客員講師エーネー・アンドレ・メサジェ作曲の音楽と振付がジャスマッチ。物語もドラマチックであるで、まるでミュージカルのよう。主役は塚

本彩加と丹羽晶子。客演の瀬田朗と野々山亮が的確なサポート。上級者から幼児まで出演者の一人一人がドラマの登場人物になり切り、全編に精彩をもたらした(7月28日・芸術創造センター)。

◆岡田純奈バレエ団

が、演出・振付を一新し

た「くるみ割り人形」(写真⑤)を上演した。同

団の客員講師エーネー・アンドレ・メサジェ作曲

の音楽と振付がジャスマッチ。物語もドラマチックであるで、まるでミュージカルのよう。主役は塚

本彩加と丹羽晶子。客演の瀬田朗と野々山亮が的確なサポート。上級者から幼児まで出演者の一人一人がドラマの登場人物になり切り、

